

科目担当者氏名 (ふりがな) いちのかわ・やすたか/やまもと・やすし 市野川容孝/山本泰		科目担当者連絡先(メールアドレス)
連絡責任者氏名 (ふりがな) いちのかわ・やすたか 市野川容孝		科目設置機関名 東京大学大学院総合文化研究科
授業科目名 国際社会科学特殊研究Ⅲ	科目認定番号 TOKx-030101-0	受講者数 8名

I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など： 本調査では、学生たちが主体的に、各々の領域におけるネットワークにボランティア等の形で参加しながら、調査対象や調査項目を設計した。特定の領域ではなく、多数の領域を横断しながら、状況を俯瞰できた点に、本調査の特徴があると考えます。

II. 調査の企画・設計(予研ゼン)

1. 調査のテーマ/領域： 「ネットワークと地域福祉(世田谷区調査)」。(1) 市民まちづくり、(2) 子育て支援の現状、(3) 「プレーパーク」という試み、(4) 障害者福祉、(5) 外国人支援、(6) 高齢者問題。

2. 調査の内容/概要： 上記の7つの領域について、各々、ドキュメントおよび統計データ等の資料を収集・整理し、加えて、関係者に聞き取り調査をおこない、各々の領域でどのようなネットワーク形成がなされ、そこにどのような共通点や相違があるのかを明らかにした。(4)では、小規模のアンケート調査も実施した。

3. 調査の範囲/対象(量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入)： 聞き取り調査においては、各々のネットワーク形成において主導的な役割を果たした人物や団体を対象とした。(4)では、聞き取りをおこなった団体(障害をもつ子どもの放課後保育)の仲介により、この団体を利用している保護者(計31名)に対してアンケート調査をおこなった。

4. 主な調査項目： 上記の7つの領域について、各ネットワークの成り立ち、現状、今後の課題について詳しくインタビューをおこなった。(4)のアンケート調査では、団体を利用するようになったきっかけ、(障害をもつ子どもの場合の)子育ての現状、等について、尋ねた。

III. データ収集の方法と結果

5. データ収集(現地調査)の方法： 主にインタビュー調査。加えて(4)ではアンケート調査。

6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数： 2003年10月から2004年2月まで。東京都世田谷区内各所。計17名(うち本授業履修者は8名)。

7. 収集したデータの量と質への評価(量的調査の場合は有効回収票数及び回収率を必ず記入)： 複数の領域にまたがって、その各々においてどのようなネットワーク形成がなされているのかを、詳細なインタビューによって明らかにすることができた。なお、(4)のアンケート調査では、対象者31名に質問票を送付し、20の回答をえ

IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析/解釈の方法： インタビュー内容を全部もしくは一部を、インタビュー者のチェックを受けながら文字化し、加えて他のドキュメントや統計データ等の資料を交えて分析した。(2)のアンケート調査では、単純集計およびクロス集計。

9. 調査の成果(調査から得られた主な知見など)： 詳細は下記報告書を参照されたいが、複数の異なる領域を横断しながら、世田谷区においてどのようなネットワークが形成されてきたのかについて、総合的に明らかにできた。同一人物が複数の領域で主導的役割を果たすケースも確認でき、領域自体が相互につながっていく動態が明らかとなった。

10. 報告書刊行の予定と概要： 東京大学大学院総合文化研究科/教養学部・相関社会科学研究室『ネットワークと地域福祉』(2004年12月、全501頁)として刊行した。

<記入上の注意点> 1. 調査のテーマ毎に用紙を替えて(3つのテーマを立てて実施した場合は合計3枚に渡って)ご記入下さい。

2. 最上部の*印の箇所には数字を[*/*]には、報告書が複数枚になる場合のみ、3枚中の1枚目なら1/3とご記入下さい。

3. 全ての項目について具体的にご記入下さい。但し、1テーマ毎に印刷が必ずA4サイズ1枚に収まるようにして下さい。フォントサイズは変えず(設定してある通りにして)、項目毎に分量に応じて「行の高さ」を変えることで調整していただけたら幸いです。

4. 報告書はウェブ上で公開する予定です。また、調査実習情報をDB化することも検討しています。ご承知置きの上、ご記入下さい。